第4篇　相対的剰余価値の生産

第11章　協業

〔的場昭弘　超訳『資本論』p.180〕

協業の意味

生産力という概念を機械という概念

だけで捉えてはダメ。機械は一種の技

力をたかめるシステムになっている必

要がある。機械だけではシステムにな

らないとする。

資本主義生産の始まり

（3分冊p.569）　かなり多数の労働者が、同時に、同じ場所で（同じ作業場と言ってもよい）、同じ種類の商品を生産するために、同じ資本家の指揮権の働くということが歴史的にも概念的にも資本主義生産の出発点をなしている。

（3分冊p.569）　生産様式〔方法〕そのものについて言うと、たとえば初期におけるマニュファクチュアは、同じ資本家によって同時さに就業させられる労働者の数がより多いこと以外には、同職組合的な手工業的工業とほとんど区別されない。同職組合の親方の仕事場が拡張されているだけである。したがって区別はさしあたり、単に量的である。

協業は、単に同じ仕事をする労働者が集まっただけのことですが、実際の結果は大きな違いをもたらします。職場における一種の革命である。同じ場所ということで、道具、材料が。一度に使える。費用は少なくて済む。不変資本の割合を少なくする。

協業の秘密

ここでは、分業でなく、協業を問題に

している。協業とは、バケツ・リレー。

同じ仕事を協力して行うこと。1人で

水をくむより効率はあがる。協業は人

間自体が機械のように組織されること

で生産効率を上げている。

（3分冊p.576）　多くの力が一つの総力に融合することから生じる新しい力能は別として、たいていの生産的諸労働の場合には、単なる社会的接触によって、競争心と生気（〝動物精気〟）の興奮とが生み出され、それらが個々人の個人的な作業能力を高めるのであって、その結果、12人の個人が一緒になって、144時間の同時的な1労働日で提供する総生産物は、12人の個々別々の労働者が各自12時間ずつ労働するよりも、または1人の労働者が12日間続けて労働するよりも、はるかに大きい。このことは、人間は生まれながらにして、アリストテレスが考えるような政治的動物でないにしても、とにかく社会的動物であるということに由来している。

同じ場所に一緒にすることによって生まれる競争心などが、社会性という原理から生まれる。田植え‥。共同体における原理は、一時的なもの。そこから資本主義はうまれない。

労働者を命令に服従させるシステム

「一カ所に集める」：空間の節約。

　　　　　　移動の節約は無駄な費用の節約とな

る。

「集合した労働日」：一つの社会的

　　　　　　機関として労働している全体として

の力＝「類的能力」を獲得した。

システムがつくりあげられている。

まずは、労働者を大量に雇い、機械

を買うだけの資金力、それを統括す

る指揮能力が不可欠である。一種の

命令によって労働者を包摂する原理

がでてくる。一方では社会的に生産

力をあげるシステムが、他方では労

働者を生産にしばりつけ、命令に服

従するシステムとなる。二重性が展

開するのである。こうした機能は、も

っぱら、監視命令を行なう労働者を

生み出す。雇われ管理職である。

〔浜林正夫　『資本論』を読む　p.19〕

生産力発展の3段階

相対的剰余価値を高めるためには、

生産方法＝労働過程の「革命」＝技術

革新が行われなければならない。素

朴、原始的ではあるが。

協業→マニュファクチュア→機

械・工場の3段階である。

（協業は資本主義のはじまり）

前述p.569　同じ種類の商品を生産するために…。

（協業による変化）

p.570　とはいえ、ある限界内では、一つの修正が生じる。

（労働の平均化）

p.570　労働の個別的違いはいっさい消滅する、

p.572　個々の生産者が資本家として生産して多くの労働者を同時に使用し、こうしてはじめから社会的平均労働を動かすようになるときに、初めて価値増殖の法則が、一般に、個々の生活者にたいし、完全に実現されるのである。

（生産手段の節約）

p.573　労働様式が変わらない場合でも、より多数の労働者を同時に使用することは、労働過程の対象的諸条件における一つの変化を引き起こす。

p.574　生産諸手段の節約は、一般に、二重の観点から考察されなければならない。一方では、その節約が諸商品を安くし、そのことによって労働力の価値を低下させる限りにおいて。

（協業の定義）

p.575　同じ生産過程において、あるいは、異なっているが連関している生産過程において、計画的に、肩をならべ一緒になって労働する多くの人々の労働の形態が、協業と呼ばれる。

p.575　それ自体として集団的であるに違いない生産力の創造である。

（結合労働力）

p.582　労働の社会的生産力または社会的労働の生産力である。

「結合労働力」：4労働者がたくさ

ん集まって仕事している。独特な生

産力がある。→p.576　独自な興奮が

生み出され‥

（バケツ・リレー）

p.577　協業の結果として、労働対象は、これらの諸局面をいっそう速く通過する。

原料の受け渡しのスピードがあが

る。1人がバケツをもって往復を繰り

返すより、何人が並んでリレーする

ほうがはるかに速い。

p.578　結合された労働者または労働者全体は、前にもうしろにも目と手をもっており、

（集中的に仕事をする）

p.579　多くの生産部門には、決定的な瞬間、

農業の刈り入れの時の集中的な労働の投入

ニシン漁の集中的、瞬間的な労働

力の投入

p.581　合衆国の西部では、多量の穀物が年々だいなしにされ、また、イギリスの支配によって古来の共同体を破壊された東インドの諸地方では多数の綿花が年々だいなしにされる。

（生産の場）

p.581　協業は、労働の空間的部面の拡大を可能にする。

p.581　協業は、生産の規模の割には生産の場を空間的に縮小することを可能にする。

p.582　労働の社会的生産力または社会的労働の生産力である。

生産手段の集中

資本家がどのくらいの生産手段を

集中するかということが、協業の規

模を決めている。

資本の規模が増えると、労働者を

指揮する機能が必要になってくる。

バイオリンは1人で弾けるがオー

ケストラには指揮者が必要だ。

（資本と労働の対立）

p.000　他人の意志の力として、彼らに対立する。

（聖月曜日）

産業革命前の労働者。週給。土曜日に

賃金をもらい、土曜、日曜に飲み続けて

月曜は二日酔いで休むのが多かった。そ

れで月曜日は「聖月曜日」と言って祭日

並みにしてしまう。

労働者はマルクスに工場は刑務所と

同じだと悪口を言っている。そこには

強制されて他人の意志で働いている状

況が出来上がっていた。

（中間管理職）

p.000　資本の名において指揮する産業将校（支配人、マネージャー）および士産業下士官（職長、〝監督〟を必要とする。

「資本の生産力」：いろんな形で資本

にとって節約になり、あるいは生産が

上がるのだから、そういうものは、「資

本の生産力」という言葉が使われてい

る。

共同体というへその尾。広い意味の

協業は昔からあった。ピラミッド。大規

模な巨大土木工事が行われてきた。

p.000　ミツバチの協業は、共同体を母体に、共同体にもとづいて行われている。

資本主義的協業は、1人一人の個人が

まず、バラバラであって、その個人が寄

せ集められて、協業を行なう形である。

共同体のへその緒から切れてしまっ

た協業。資本主義の独特な形態、しかも

歴史的形態度と言っている。

了